

第28回 関西広域連合協議会

- 1 日 時 令和7年4月24日（木）13：00～15：15
- 2 場 所 大阪府立国際会議場 10階 1008-1009
- 3 出席者

協議会委員（29名）

秋山喜久会長、新川達郎副会長、高木正皓委員、梅田千景委員、
濱崎加奈子委員、野間景委員、草野とし子委員、丸山美津子委員、
鶯春夫委員、前迫ゆり委員、小林啓委員、清水順子委員、
植村信吉委員、市場美佐子委員、青木利博委員、北野竹次委員、
山田勝利委員、西村早栄子委員、山下淳委員、西平都紀子委員、
池添純子委員、加藤恵正委員、辻村琴美委員、世良清委員、
木田薫委員、友松洋之子委員、岡田亜紀委員、神戸貴子委員、
青木正繁委員

関西広域連合（11名）

三日月大造広域連合長、西脇隆俊副広域連合長、福谷健夫副委員、
志田敏郎副委員、竹内重貴副委員、山本剛史副委員、佐小元士副委員、
川端隆史大阪府政策企画部長、池田頼昭兵庫県防災監、
北村香和歌山県企画部長、櫻井理寛鳥取県令和の改新戦略本部長

4 議 事

[事務局]

失礼いたします。それでは定刻でございますので、ただいまから、第28回関西広域連合協議会を開催いたします。

冒頭の司会役を務めさせていただきます、広域連合本部事務局の土井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は公開で行います。報道関係者、関西広域連合協議会議員の皆様、広域連合の連携団体の皆様、そして、一般傍聴の方が傍聴していらっしゃるほか、インターネットでライブ配信をしておりますので、あらかじめ、ご了承願います。

本来ですと、ご出席の委員をお一人様ずつご紹介差し上げるべきところでございますが、時間の都合上、失礼ながら、お手元の名簿と配席図、こちらのほうで、ご紹介に代えさせていただきますたく存じます。

また本日は、三日月広域連合長以下、広域連合委員等が出席してございます。こちらのほうも、お手元の出席者名簿でご確認をください。

議事に先立ちまして、申し上げます。去る4月15日、岸本周平和歌山県知事がご逝去されました。ここに故人のご冥福をお祈りし、謹んで黙祷をささげたいと存じます。恐れ入りますが、皆様、ご起立をお願いいたしたく存じます。

(黙 祷)

黙祷を終わります。どうぞご着席ください。

それでは初めに、秋山会長からご挨拶をお願いいたしたく存じます。よろしくをお願いいたします。

(1) 会長挨拶

[秋山会長]

開会に当たりまして、一言、ご挨拶申し上げます。ただいま報告がありましたように、広域連合委員である岸本和歌山県知事が、去る4月15日の日にご逝去されました。急逝に驚き、悲しみを禁じ得ません。知事としての途中でこのような形で生涯を閉じられたことは、本当に無念であったと思います。岸本委員は、協議会でも積極的に出席され、協議会委員からの意見にも真摯に向き合っていました。ここに岸本委員のこれまでの貢献に深く敬意を表すとともに、謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

さて、この協議会は、平成23年9月の第1回協議会に始まり、今回で28回目を迎えました。これまで広域連合の計画や事業、関西の課題、関西広域連合の将来像について協議会委員と連合委員である知事市長と幅広い意見交換を行ってまいりました。

さて、今月13日に大阪・関西万博が開幕し、関西広域連合パビリオンを出展しているところでございます。開幕までにパビリオンの運営体制を整え、現在では連日多くの来場者にお越しいただいております。

パビリオンに、各地域の来訪を促すゲートウェイとしての役割を十分に果たし、国内外の来場者に向け、関西の魅力を十分に発信していただきたいと思います。

さて、昨今の経済情勢に目を向けますと、物価の上昇は継続し、個人消費に及ぼす影響や、アメリカの政策動向による影響など、依然、我が国の景気を下押しするリスクが問題となっております。

特に、アメリカ政府の関税政策は、日本のみならず、世界経済全体への影響が非常に大きく、世界的に経済情勢の先行きが見通せない不安な状況が続いております。

関西広域連合構成府県市の首長の皆様におかれましては、このような不安定な情勢の中でも、しっかりと住民目線に立ちながら、賃上げと投資が牽引する成長型経済の実現に向けてご尽力願いたいと思います。

ご存じのとおり、関西広域連合は「関西から新時代をつくる」という志の下、全国初の広域連合として、平成22年に結成されました。設立から15年目を迎え、これまでの関西広域連合の取組を振り返ってみますと、東日本大震災や能登半島地震等の大規模災害におけるカウンターパート方式による被災地の支援、文化庁の京都移転の実現、ドクターヘリの柔軟な運営体制の構築など、一步ずつ着実に成果を反映できたと評価されております。

今後とも関西広域連合協議会での議論はもちろん、関係する団体等の意見を十分に聴取し、広域連合の施策を力強く進めていただきたいと思います。

時間の制約もありますが、多くのご意見をいただき、施策に反映するため、実り多い会議としていただきたいと思います。皆様の協力よろしく申し上げます。

[事務局]

秋山会長、どうもありがとうございました。

ここから先の進行は、秋山会長にお願いいたしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 広域連合長挨拶

[秋山会長]

それでは、初めに、三日月連合長から一言ご挨拶をお願いいたします。

[三日月広域連合長]

皆さん、改めまして、こんにちは。4月も24日、まだまだ年度初め、そして、ゴールデンウィーク前という大変お忙しいところ、このようにご臨席をいただきまして、ありがとうございます。また、常日頃、それぞれのお立場で、各地で関西広域連合の取組、また、それぞれの分野の事業等に対しまして、格別のご高配、ご尽力賜っておりますことに心から敬意を表し、また感謝を申し上げます。

たいと存じます。

冒頭で黙祷をささげましたが、仲間でありました、一緒にこの自治を進展させようということで頑張っていたいておりました、岸本和歌山県知事が先般ご逝去され、痛惜の念にたえないところであります。今、秋山会長からもお言葉をいただきましたように、岸本知事もここに一緒に並んで座り、防災のことや、また広域農林水産振興を担当いただいておりますので、林業のこと、農業のこと、さらには観光のこと。精力的に頑張ろう、一緒にやろうということでお話しただいていただければ、無念でございますが、天国から見守っていただいていると思いますので、みんなで力を合わせてこの関西、盛り上げていけるように頑張ってまいりたいと思います。

さて、秋山会長も今お触れいただきましたように、この関西広域連合は2010年12月に立ち上げられて以降、15年目を迎えております。日本で最初につくられた府県を超えた広域自治体であり、現在も日本でたった一つしかない広域自治体ということになっております。関西から新時代をつくろう、分権型社会の受皿になろうということで取り組んできておりますが、まだまだ道半ばのこともございますので、今日、協議会でいただく皆様のご意見も踏まえ、さらに関西広域連合の自治を進化していけるように取組を進めてまいりたいと考えております。

私、広域連合長3代目になりますが、井戸知事、仁坂知事、そして、私ということで今、担わせていただいております、昨年12月から2期目をお預かりしているところであります。この2期目の公約、スローガンとして、五つの力を高めようということを申し上げているところでございます。

少し申し上げ、後ほどの皆様のご意見の材料にしていいただければと思いますが、一つ目は、広域防災力、防災力を高めようということでございます。阪神淡路大震災から30年の節目、先般も南海トラフの新たな被害想定も出されたところであります。能登半島地震カウンターパート、東日本大震災カウンターパートで支援してきた実績も踏まえ、いつ何が起こっても、みんなで助け合っ

ていける、そういう広域防災力を率先してつくっていこうということでございます。今、政府で検討中の防災庁の設置につきましても、東京だけではなく、ぜひこのような実績のある関西に設置をすべきではないかという提言もいち早くさせていただいているところでございますので、この分野、ぜひ関西は役割を果たしていきたいと考えているところでございます。

二つ目は、産業力の向上でございます。大阪・関西万博が開催され、様々な新しい技術、展望というものが紹介されております。それぞれの府県市が持つ公設試験研究機関も連携して、みんなで力を合わせて産業力を高めようという取組も行っておりますし、大学、企業、世界に誇る大学や企業も集積しておりますので、こういったところをさらに高めていきたい。その意味で昨年3月に関西広域産業ビジョンを改訂いたしまして、7月には、関西広域産業ビジョンのアクションプランを策定したところでもございますので、具体的取組を進めながら、例えば、ライフサイエンスですとか、カーボンニュートラルでありますとか、そういった事々につきまして、選ばれる関西、また中小企業と共に発展していく関西をつくっていきたいと考えております。

三つ目は文化力の向上でございます。申し上げるまでもなく、京都も奈良も、そして、百舌鳥・古市古墳群にも見られますように、日本の文化の源をつくってきたのは、ここ関西だという。このような思いの中、文化庁、京都に移転してはどうかということで、積極的に働きかけをし、実現もいたしました。そして、この文化庁と共に、一昨年の7月には共同宣言を行いまして、この文化力を起点とした様々な取組と一緒にやっていこうという取組も進めているところでございますので、この点もぜひ皆様方の色々な知見や、またご経験もお寄せいただければ幸いです。

四つ目は、環境保全力の向上でございます。私ども滋賀県がお預かりしている琵琶湖と、例えば、淀川、大阪湾つながっているということをはじめ、水資源、また、水源の保全、自然の力、生態系、こういったものを大切に守っていく関西であろうと。ジオパークもございますし、海、山、里、川、そういった

もののつながりを大事にしながら、この環境保全力の取組、また、府県域を越えて被害をもたらす鳥獣被害に対しまして、連携型鳥獣害対策でありますとか、脱炭素社会の取組を進めていこうということでございます。

そして、最後五つ目は、広域自治力の向上ということでございまして、先ほど申し上げたように分権型社会に向けて様々な取組をしてきておりますが、まだまだ道半ばなこともございますので、そういった取組を、さらに実績を積み重ねるということと併せまして、今年度から、企画調整事務として、広域連携による行財政改革の推進というものを新設させていただきました。それぞれの府県だけで担うのではなくて、広域で担えば、もっと効率的な行政ができるのではないかと、全部参加していただきました奈良県が中心となって、現在検討を進めようとしているところでございます。

この五つの力を高めるべく頑張ってまいりますので、どうか今後ともお力添えをよろしくお願いいたします。

大阪・関西万博が開幕をいたしまして、私たち関西も九つの府県で関西パビリオンというものを創設し、大変好評をいただいているところでございます。少し待ち時間が長く、もっと中の展示を効率的に見られるような、そういう取組もしてはどうかということでもありますとか、これから暑くなるので、待っていただく方やお過ごしいただく方の環境を考えて、取組をすべきだという、このようなご意見等もいただいているところでございますので、期間中、また必要な改善もしながら皆様方と共に、ゲートウェイとして、万博の会場でお迎えし、そこから、それぞれの府県市に来ていただけるような、そういう取組をこれからも展開していきたいと思っております。お手元にパンフレットをご紹介しますので、また機会を見つけて、ご来訪、お楽しみいただければ幸いです。

最後になりますが、どこかの国ではありません。自分の国のことだけ考える主張が今まかり通っていて、世界中が振り回されているようなところがございしますが、このようなときこそ連帯、和の精神で、関西は一つだと。しかし、一

一つを大切にするんだということで、日本の経済、社会、文化、産業、牽引する気構えで頑張ってまいりたいと思いますので、この協議会でも建設的なご議論賜りますようお願い申し上げ、冒頭少し長くなりましたが、私からのご挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

[秋山会長]

どうもありがとうございました。

(3)意見交換

【今後の施策、事業の展開について】

[秋山会長]

それでは、これから意見交換に入りたいと思います。

まずは、事前に意見をいただいた方からご発言いただき、その後、自由発言の時間を設けたいと思います。

これからの進行は新川副会長、お願いいたします。

[新川副会長]

それでは、進行をさせていただきたいと思います。あらかじめご意見を出していただいた方々から、順次指名をさせていただき、ご意見をいただければと思います。

まず、医療・福祉分野の委員から草野委員、お願いをいたします。よろしくお願いいたします。

[草野委員]

滋賀県看護協会の会長をしております、草野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私のほうからは、関西全体でウェルビーイングへの取組等を発信していけないだろうかという提案でございます。

少子化が進む中で、医療福祉の現場では人材確保に苦慮する状態が続いております。そのような中、ニュースでは、一般企業の賃上げは6%上がったとか、ネットを見ていると、一般労働者の医療福祉の月額給与は2.2%増、そして、全産業の平均の給与は3.2%増ということで、医療福祉の分野は12.2%下回る、そのようなニュースが流れたりしております。診療報酬や介護報酬での経営の厳しさの中、医療福祉だけが取り残されているのかとの思いを医療福祉に働く者は持ってしまうような状況もございます。

しかし、そのような中ですが、視点を変えて、現場の職員が働きがいのある職場、働きやすい職場にすることで、人材を確保できないかと今、各種取り組んでいるところです。この医療福祉の現場の職場改善は、県民や府民の皆さんのご理解やご協力がなければ実現できるものではございません。今の社会は、SNSでの誹謗中傷などにより、他者の人格を否定するような行為があるとも言われていますが、各現場の働きやすい職場づくりには、心身ともに健康であり、社会的にも認知されていることが重要であると考えます。就業面からのウェルビーイングの向上については、厚生労働省などから様々な発信がされていますが、生産性の向上を図るには、ウェルビーイングの向上が非常に大事であるということで、そのような発信もされています。働く人、一人一人が自ら望む生き方に沿った、豊かで健康的な職業人生を、安心して送れる社会を築いていくこと、それが重要であるというようにも示されています。

ウェルビーイングの向上は、人材確保・定着の上で不可欠であると考えております。関西には笑いの文化があるので、関西全体で、どうせやるなら楽しくやろうという思いの中、非常に厳しい現場である保健、医療、福祉の現場ではありますけれども、その中でウェルビーイングの実現、向上に向けた取組ができないかということで発言をさせていただきました。

現在、関西広域連合の広域医療局では、ドクターヘリによる広域救急医療体

制の充実や、先ほどもお話に出ておりましたが、災害時における広域医療体制の強化など、非常に大切な分野を担っていただいておりますし、積極的に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。これらの取組をさらに発展させていくためにも、医療現場の人材確保は喫緊の課題となっております。広域医療体制をさらに拡充していく中で、人材確保定着の視点も十分に取り入れていただきながら、そして、できればウェルビーイングの発想も加えながら、今後の取組につなげていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。

草野委員からは、関西全体で保健、医療、福祉の分野の人材の確保、そして、その職場環境やウェルビーイングの確立ということを通じて、関西圏の医療、福祉分野の底上げをということでご意見をいただきました。後ほど、また各委員からコメントをいただきたいと思います。

引き続きまして、環境・エネルギー分野から清水委員、ご発言をよろしくお願いいたします。

[清水委員]

私は、奈良で再生可能エネルギーを中心にした環境活動をしておりますが、今回は食品ロスのことについてお尋ねします。

大阪・関西万博が今開催されて、今日も多分にぎわっていると思います。来場者もスタッフも多いとお聞きしていますので、会場内での食品ロスがとても気になるところです。出展内容があまり分からない1か月前に、この質問書を書いておりますので、私の誤認が多分あるかと思いますが、関西広域連合ブースでは既に対策を検討されているとは思いますが、例えば、スタッフの弁当の適正発注、出展者の企画はもちろん、余った場合のアプリの活用とか、会

場外への、大阪府下のフードバンク団体との連携などで必要な方に、もしも余ったものがあつたのであれば配布を行い、食品廃棄物の発生を徹底して抑えていただきたいという思いです。抑えた上で、食品廃棄物はリサイクルし、地域の循環システムと連携していただきたいと思っています。

食品、私たち脱炭素のことをしていますが、やはり食品というのは命とエネルギーの塊です。食品ロス削減対策というのは、気候変動対策にも大きく寄与すると信じておりますので、よろしくお答えをお願いします。

以上です。

[新川副会長]

ありがとうございました。清水委員からは、関西万博での食品ロスの問題、ここを切り口にご質問をいただきました。また後ほど委員からよろしくお願いをしたいと思います。

続きまして、防災分野から市場委員、よろしくお願いいたします。

[市場委員]

防災分野の市場です。発言の機会をありがとうございます。

本日は災害ごみの課題から、災害発災前からの災害ごみを減らす必要性について述べさせていただきます。

私自身、16年ほど前から東北から九州まで台風、豪雨災害、また、地震津波災害での、被災地への家屋の片づけや泥かきなどの災害ボランティアに参加させていただいています。昨年1月発災した能登半島地震後も石川県の七尾市、能登町、珠洲市で家財の片づけや分別、軽トラックでの仮置場への運搬作業に参加して、改めて思い知らされたことの一つが災害ごみの課題です。地震や津波で住めなくなった家屋では、使えなくなった家財道具や、生活用品等はもとより、片づける際に新品のものや、まだ使用できるものがあつても、もう使わない、仮設住宅には狭くて持って行けないなどの理由から、災害ごみとして処

分されているという実態があります。

私が入りましたところでは、輪島塗の上等な漆器類なども、もう使わないという理由から、箱のまま災害ごみとして出されているさまに、心が痛くなりました。今後、大規模広域災害、私たちにとっては南海トラフ巨大地震が発災した場合、高齢化が進む時代にあって、ボランティアの数も見込めず、人手も足りず、保管場所もない状況の中、住宅や建物の倒壊破損により大量の瓦礫や家具、家電などの災害ごみは半端のない量が発生いたします。それらに加え、一番危惧されるのは、俗にたんすの肥やしなどと言われる、使用されず自宅に眠り続ける退蔵品などが、一斉に災害ごみとして排出されれば、途方もないごみの量になり、復興の足かせとなり得ます。我が家も例外ではありませんが、日本のおうちには本当に物が多いおうちが多いという感想です。ボランティアから帰ってくるたびに、我が家の退蔵品を片づけております。

この退蔵品を少なくすることは、災害ごみを減らすことにつながると思います。SDGsの観点からも、日頃からテレビ等、報道等でリユースやリサイクルなど、計画的に退蔵品を適正に処分するなどの呼びかけは自治体を通じて広報されていますが、災害ごみを減らす対策の視点からの広報はあまり聞かず、周知されていない状況です。私ごとですが、熊本地震後から依頼される講座や講演の中で、この課題に触れて啓発に努力しておりますが、災害ごみを減らす視点からも、さらなる呼びかけで周知徹底が必要と考えます。よろしくお願いいたします。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。防災分野からは市場委員が災害ごみに着目をして、とりわけ事前の復興や、あるいは予防的な災害対策ということを、特に退蔵品中心にご指摘をいただきました。また後ほど担当委員からコメントをいただければというふうに思っております。

引き続きまして、有識者委員から加藤委員、よろしくお願いいたします。

[加藤委員]

加藤でございます、よろしくお願いします。地方創生と地方分権改革というテーマで一言申し上げたいと思います。

石破内閣の下で地方創生というのが息を吹き返しつつあるようですけれども、分権改革というのはどこに行ったのかと。もうほぼ死語になりつつあるのではないかという気もしております。これは大変な制度改革、21世紀に入って大きく動いたのですが、実質を伴わなかったというのが現在の状況で、制度改革、大変なことなわけですね。真正面からやっていくというのは相当難しい。欧米でも、特にイギリスではこうしたことから、その中間的な制度を提案して実施していくというようなことが行われてまいりました。ブロックグラント方式、あるいはシティ・ディールシステム、ディールなどというところ、怪しげな人が怪しげなことを言っておりますので、あまり使いたくない言葉ですけれども。しかし、都市政策としては、随分早くからこのシティ・ディール方式というのは取り入れてきたわけでありまして。政府と交渉していくということでもあります。

そのためには、この関西広域連合、非常にいい組織であるとは思っておりますけれども、ただ自治体が集まった、ふんわりとした協議会というイメージから、なかなか脱し切れていないということだと思います。より強力な結束のための仕組み、仕掛けを、やはり関西広域連合の中に組み込んでおく必要があるだろうという気がしております。頑健な広域自治体への進化というのをぜひとも、これからお願いしたいところであります。

連合長も経済活動、産業活動の強化が大事だと、第2番目にご指摘がありましたけれども、これもどうしても自治体ごとにやってきたというのがこの経緯であります。これを広域的な観点からグローバルな戦略的な拠点をつくっていくということを、本気でここでやっていく。あるいは自治体をまたぐ広域問題に対して政策注入をする、場合によっては深刻な条件不利地域への所得移転も広域連合として、マネジメントしていくというようなことも必要なのではない

かという気がしております。いずれにしましても広域連合の、これから求められる広域行政へのベースをこれからどんどんつくっていく、進化に期待したいと思っております。

以上でございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。

とりわけ地方分権改革ということが、少し後ろに引いてしまっているのではないかと、関西広域連合に今後さらに、大いなる期待をいただいているかと思えます。新たな仕組み、それを試みてはどうだろうか。また、関西広域連合の結束ということを高め、よりしっかりとした広域連合の活動を進めてはどうだろうかということでご意見をいただきました。また、これらにつきましても後ほど、ご担当の委員の皆様方からコメントをいただければというふうに思っております。

続きまして、公募委員から辻村委員、ご発言お願いできますでしょうか。

[辻村委員]

私のほうからは、北陸新幹線延伸工事と地下水の問題についてというタイトルで意見書を、提出いたしました。

ただ、この内容は約1か月前の情報を基にしておりますので、内容がまた進んでいるかもしれませんが、その辺りご了承をお願いしたいと思います。

最近の新聞紙上、読者の声欄には、「水守るため」という見出しで、新幹線の延伸ルート再考と米原ルートの検討をとという趣旨の投稿が連投されています。北陸新幹線延伸工事に関わる地質調査の公表を求める記事に同意を示す読者の反応です。

小浜ルート上に生活圏を持つ読者が、地下水を「京都の命の水」と表現するほど大切にしている状況が見てとれます。直径10メートル以上のトンネルを掘

り進め、延伸工事を進めることの残土処理も問題視し言及しています。

住民の不安を解決できないままの計画は適切なのでしょうか。膨れ上がる工事費は次世代に負担を課します。理想と現実の間で選択肢が限られるでしょうが、安全性を担保し不可抗力を避け、低コストの新幹線延伸ルートをもう一度検討していただけないでしょうか。

住民の不安を払拭することがよりよい経済効果を促進すると予測します。自然環境を保全し経費コストと労力負荷をかけない、無理をしない延伸ルートの再検討について、広域連合から国に働きかけていただきたいと思います。

これが、私が出した意見のその1でございます。もう一つありますので、意見2を発表させていただきます。

これも約1か月前の意見でございますので、少し情報が古いかもしれませんが、ご了承ください。タイトルは大阪・関西万博視察のご提案です。大阪・関西万博が開幕しました。象徴となる巨大リング構造物がギネスに認定され、実業団と大学対抗55キロメートルマラソンが55年前の開催地、吹田市の太陽の塔を起点に、新大阪から御堂筋、大坂城、ユニバーサルスタジオジャパン、舞洲、リング前と駆け抜けました。

私たち関西広域連合協議会もハラハラしながら見守っていたという立場ですが、協議会委員各位の所見を進言してまいりました。企画から開催の道のりを思い返しながら、協議会委員の地元ブースやイベント、先進的な諸外国の展示館、そして、テーマ館の宇宙空間、火星の石を確認したり、研修が必要ではないかと存じます。

当協議会の未来を考察する品質向上のための勉学の一環として研修をご計画、推進いただけないでしょうか。次年度の協議会審議内容を充実させるよい機会と認識します。ご検討お願いいたします。

以上、2点の意見書を提出させていただきました。よろしくお願いいたします。

[新川副会長]

ありがとうございました。

ただいま、辻村委員からは、一つは北陸新幹線延伸工事に関わりまして、様々懸念の声が上がっているということを踏まえて検討してはどうか。また、関西広域連合としても、お考えになってはどうかということでございました。もう一つは、せっかくの関西万博、ぜひ当協議会委員も含めまして、しっかり勉強をしてはどうだろうかということでご意見をいただいております。後ほど、また各委員からコメントをいただければというふうに思っております。

続きまして、同じく公募委員でいらっしゃいます、世良委員からご意見をいただいております。

世良委員、よろしくお願いいたします。

[世良委員]

公募委員の世良でございます。よろしくお願いいたします。

文化庁の京都移転、機能移転に伴いまして、全国高等学校総合文化祭について若干の意見を申し上げたいと思います。皆様、全国高等学校総合文化祭と聞いても、なかなかピンとこない方も多いのではないかと思います。よく似た名前でも全国高等学校総合体育大会、インターハイです。国体、名前変わりましたが、国民スポーツ大会と並ぶ高校生の運動部の大会ですが、それと同様に、例えば、演劇であるとか、合唱であるとか。文化部の全国の高校生が年に一度、集うというのが全国高等学校総合文化祭でございまして、これは文化庁と、それから、全国高校文化連盟の主催によって全国巡回が行われています。

ご存じない方もいらっしゃると思うので、説明が長くなるかもしれませんが、これは1977年、昭和52年に第1回が開催されました。その後、全国巡回をして1周回ったところですが、関西府県におきましては1978年第2回が兵庫県で1980年、第10回、1997年、1980年、第10回が大阪府、そして、97年に奈良県、1998年に鳥取県、2004年に徳島県、2006年に京都府、2015年滋賀県、2021年に

和歌山県というように巡回をしてきました。

かつて、私は三重県の高等学校の教諭をしておりまして、2024年に滋賀県で行われました第48回の全国大会に生徒を引率をさせていただいたのが初めてでございます。その際の担当校は滋賀県立の膳所高校さんだったのですが、非常に心のこもったおもてなしをいただいて、当時そのときは雨が続いてなかなか全国から集まった高校生たちも、せっかく滋賀県に集まったにもかかわらず、琵琶湖のきれいなところが見えなかったところもあって、それは残念な一方で、先生方のおもてなしには本当に思い出に残るものがあります。当時のご担当の先生はご異動されたようですけれども、現在も膳所高校さんは滋賀県代表で、昨年の夏の岐阜県大会にもご参加いただいていたと思います。昨年の岐阜県で行われた全国大会には、奈良県の西大和学園高等学校さんが準優勝ということで、文化庁長官賞を受賞されております。

そういったことで、関西へ2周目に回ってくる、この全国高校文化祭にぜひ力を入れていただきたいと思いますと思っております。

先ほど申しました、西大和高校さんにしても、膳所高校さんにしても非常に多数の部門がございまして、私が担当して指導しておりますのが弁論部門でございます。高校生が7分間に意見を述べると。7分間と言っても、高校生にとっては非常に長いものでもありますし、また、単に主義主張を一方的に言うのではなくて、高校生らしい若さといいますか、何て言いますかね、自分の生きる道を熱心に語るってのは本当に心を打たれるものがあります。まさに、7分間の言葉の芸術と言われておることでもあります。

昨年の夏に、岐阜県で行われました岐阜県大会では、私が力があるわけではありませんが、全国大会の審査員を仰せつかりまして、岐阜県の高校さんにもご指導させていただく機会がございました。西大和学園さんが準優勝だったのですが、岐阜県の高校さんは総合優勝して文部科学大臣賞を受けておられます。そういったことで、「滋賀びわこ総文」の思い出を、和歌山県さんでも、その後、大会がありましたので、そのときはコロナの関係で会場に行くことができ

なかったので、申し上げることはできませんでしたが、ぜひ関西で、文化庁のこの機能移転ということも併せて、各県でご尽力をいただくといいのかなというふうに思います。

私も十分力があるわけではございませんが、各府県で、もしも少しPRみたいなことを言うのですけれども、ご指導、ご助力申し上げることもやぶさかではないと思っておりますので、ぜひ関西で、恐らく、2030年に第54回の全国高等学校総合文化祭が関西に回ってくると聞いておりますので、それに向けてご準備いただくとうれしいと思います。少し回りくどいような説明になりました。大変失礼いたしました。ありがとうございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。

ただいま、世良委員からは、全国高等学校総合文化祭、いずれ5年後には関西に回ってくるということで、これに際して、関西を挙げて、この総合文化祭を盛り上げてはどうだろうかということでご意見をいただきました。とりわけ、弁論部門をご専門にしておられるということから、この分野での底上げも考えてはどうだろうかということでご意見をいただきました。また、後ほど委員からコメントをいただければと思います。

続きまして、同じく公募委員でいらっしゃいます、岡田委員からご意見いただいております。

岡田委員、よろしくお願いいたします。

[岡田委員]

ありがとうございます。和歌山から参りました、岡田亜紀と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私が代表を務めております、NPO法人は、設立当時から岸本知事に理事を務めていただき、知事になられてからは特別顧問としてご支援を賜ってまいり

ました。こちらでは障害のある方の就労支援事業と、今は子供の貧困に向き合うプロジェクトをやってございます。具体的には、給食で命をつないでいるような子供たちが、当たり前毎日ご飯が食べられるような仕組みを考えたプロジェクトでございます。

このプロジェクトに、3月末でご退任になられたのですが、矢田稚子内閣総理大臣補佐官にもご縁をいただいてアドバイザーを務めていただいております、ITの力を借りて取り組む仕組みでもありますのでIT企業さんからも、ご支援をいただいております。3月中旬に意見交換をしておりましたところ、また別の話題になり、矢田稚子内閣総理大臣前補佐官は賃金と雇用のご担当をされてまして、IT企業の経営者と共に女性の活躍推進やデジタル人材育成についてということで意見交換をさせていただきました。女性の出産後の働き方や男女間賃金格差を見直すためにIT技術を低価格で学べる団体というのがありまして、それをこれから全国に広めようという取組をされているというお話でした。

その取組はとてもよいことだと感じたのですが、こうしたデジタル教育の推進は、女性だけに限らずに、現在社会に出られない方、例えば障害のある方であったりだとか、ひきこもりの方、通勤が難しい方や、あるいは受刑者の方などにも有用なのではないでしょうか。現在は、社会に出られていない方々にデジタル教育を受ける機会を与えまして、習得したデジタル技術を活用し、自身で働き、納税者になっていただくことで社会保障費を減らすことにもつながりますし、企業の人材不足解消にも寄与するかと存じます。

その反面、まだまだデジタル化できない、デジタルでは賄えない、人が必要な仕事もございます。私、別法人で製造業をやっておりますが、ロボット化が進んでいるとはいえ、人材不足で、海外の人材も多く採用させていただいたり、企業内に保育園も運営しているのですが、そちらも絶対に人でないとできないお仕事だと思っております。女性の社会進出にも必要不可欠な保育園、そして、今は介護をする方も多くなっている中で、介護職であったり、社会福祉事業というのはやはり人材が重要だと思います。これらのことから、社会に出られる

人には出ていただいて、出づらい方にはデジタルを学んで、それを職業にするという仕組みをつくれたら、人材不足を解消できるのではないかと考えます。

昨今、いずれの業界においても人材不足が喫緊の課題となっております。関西広域連合の「関西広域産業ビジョン」においても、「デジタル活用の持続的推進（人材育成・確保、推進体制整備、風土醸成など）」の視点が盛り込まれているところです。

これらをさらに拡充するためにも、現在は社会に出られていない方々を対象としたデジタル教育を、広域産業振興の視点から実施してはいかがでしょうか。課題解決に向けて、まずは関西から積極的に取り組んでいただけたら幸いです。

以上です、ありがとうございました。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。私たちが直面しております社会課題、その中で人手不足や、あるいは様々な分野での生きづらさ、困り事、そういうところに目を向けたときに、このデジタル教育ということが一つ大きな助けになるのではないかと。そして、また、それに伴って様々な人材不足の側面でも、新たな発展教育というのが可能ではないかということで、ご意見をいただきました。これもまた後ほど、担当委員からコメントをいただければというふうに思っております。

続きまして、同じく公募委員の青木委員からもご意見をいただきたいと思います。

青木委員、よろしくお願いいたします。

[青木委員]

青木でございます。よろしくお願いいたします。今日も四国の南からやってまいったのですが、やはり大阪に近づくほど暑くなってきて、なぜ暑いのかな

と思ったら、やはり皆さん、会長さん等のお話もあった、大阪・関西万博の熱気があるのではないかと感じております。大阪駅の高速バスを降りたところに、インバウンド、外国の方や、また、たくさんの方が無料の関西万博行きのバス停へ向かっている姿を見ると、やはり万博というのはすごいなと、機運を高めて、ぜひとも行きたいなと感じております。では、意見を言わせていただきます。

意見のほうは、やはり若者世代の関西広域連合施策への参加の推進でございます。これは平成28年に徳島県からスタートさせていただいてございます。何と、もう今年で10回目を迎えるといったことでございます。既に、ホームページにはもうアップされておりますが、1周したので、今年は来年2月ぐらいに、徳島市で行うといったことでございますので、ぜひとも大学の皆さん、また、関係者の皆さん、橋を渡って四国へ来ていただければと思ってございます。

その中で、この大学生との意見交換会、ポイントは、忘れてはいけないのは、やはり広域連合施策のさらなる見える化です。大学生が、関西広域連合って何をやってるんだろう、どういった組織なんだろう、どういった体制なんだろうといった疑問、それについてやはりしっかりと見える化、PRをし、また、大学生等の意見を聞いて、広聴機能の充実を図るといったことが設立当初の目的であったかと考えてございます。ぜひとも、いま一度、原点にかえって、また徳島でございますので、しっかりとその辺りを関西広域連合として、学生の皆さんに、改めてアピールをするような形をしていただければいいのかなと考えてございます。

また、時代に合ったテーマやニーズを取り入れてやらせていただいております。去年は、山下知事の下、奈良県で、連合長も来ていただき、奈良女子大学で行わせていただいております。去年が非常に、近年まれに見る、僕はよかったと思ってございます。

少し紹介すると、最優秀賞で、奈良県立大学のMURAJIOというところが最優秀賞を取りました。非常にいい提言でございまして、ぜひとも、関西の大

学は連携して単位相互制度、単位を各大学、違う大学に行っても、その単位がもらえる。また、開講の増加や教職員の課程の設置の推進、これを取り込むことによって、東京に行くんだ、向こうへ行くんだではなくて、関西圏域の大学で、地元で学べる体制、それを相互に。相互の単位が取れるといった形で。近年まれに見るいいご提案だと考えてございますので、教育関係、文科省の皆さんと、ぜひともこれはできるように進めていただければと思っております。

1周したので、ぜひとも今までの政策・施策をもう一度洗い出して、どうなったかという調査を、関西広域連合の事務局には求めたいと思っております。ぜひとも、今後未来をつくる、関西をつくるのは若者世代、次世代の皆さんでございます。我々、現役世代ではありません、はっきり言います。だからこそ、力を入れて継続する。それだけは、ここにお集まりの委員の皆さん方が未来永劫、継続していただきたいと考えてございます。

最後に、大学生と意見交換会を毎回やらせていただけてます。色々な意見をいただく中で、去年の奈良県の豪華景品が非常によかったというのを、交流会でも聞きました。ぜひとも来年、徳島でございますので、今日、徳島県、皆さんたくさん来ていただいておりますので、幹部の皆さんどうぞ徳島県でもしっかりと景品、よろしく願いしたいと考えておりますので、また、副知事、後藤田知事も、よろしく願いしたいと思っております。

発言は以上でございます。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。大阪・関西万博の熱気から、若者の意見交換会の熱気までお話しをいただきました。意見交換会も10回目ということです。記念大会ですので、もう一工夫あってもいいかななどと思いながら、お話を聞いておりました。もちろん、貴重な提言をいただく、加えて、これを機会に多くの方に関西広域連合について知っていただく貴重な機会かと思っております。

ので、また後ほど、委員の皆様方からコメントをいただければと思います。どうもありがとうございました。

あらかじめご意見をいただいております委員は、以上でございますが、今日、ご欠席の委員の方からもご意見をいただいております。ご欠席の委員からのご意見も本日は紹介をさせていただきたいと思います。お二人からご意見を頂戴しております。

初めに、環境・エネルギー分野の大島委員からのご意見いただいておりますので、事務局のほうからご紹介をお願いしたいと思います。

[事務局]

それでは事務局のほうから代読をさせていただきます。着座にて失礼をいたします。

まずタイトルでございますけれども、「環境によい再エネ支援の拡充を」でございます。

2050年ネットゼロに向けて、再エネの拡大がますます必要となっています。千葉大学、倉阪研究室が公表しております、「都道府県別の自然エネルギーの供給割合ランキング」（2024年に発表された2022年度推計）によると、地域別電力自給率は、和歌山県（13位）、鳥取県（17位）、徳島県（18位）が比較的上位に位置している一方で、大阪府46位、京都府44位、奈良県38位、滋賀県35位、兵庫県33位と著しく立ち後れている府県が見られ、全体としては残念な状況になっているのが実態です。再エネのポテンシャルから見ても、関西広域連合に属する自治体では、一層の努力が必要と考えます。

温室効果ガス削減のための広域的取組の一環として、再エネ普及率目標と政策を定めることを求めます。

政策面では、手始めとして、市民が設置する太陽光発電設備＋バッテリー、及び、ソーラーシェアリングに対する支援の拡充を、関西広域連合に加入する自治体で大胆に進めていただきたいと思います。

ご意見としては以上でございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。大島委員からは再エネ、これをもっと関西広域連合全体で進めてはどうか。自然エネルギーの比率でいうと、どうも関西各府県、あまり形勢がよろしくないというところもご指摘いただきました。もちろん、地域のそれぞれのポテンシャルは異なっておりますので、一概には言えないところもありますが、関西広域連合としても、さらなる取組が必要ではないかというご意見でございました。

続きまして、防災分野の矢守委員からも、ご欠席ですが、ご意見をいただいております。

事務局から代読を、お願いをいたします。

[事務局]

高齢化率が高い上に高齢者の絶対数が多い状況で、かつ、小規模自治体のパワーが落ちた状態で迎えることが予想される、21世紀の大規模広域災害（南海トラフ地震はその代表例にすぎず、他の災害かもしれない）に対しては、一つには、個別自治体の対応では全く歯が立たず、関西広域連合のような広域の行政連合及び国の周到な準備と強力な関与が不可欠である。

もう一つには、当連合における、これまでの議論でも指摘されているように、例えば、環境・脱炭素施策（小規模集落を電気、上下水供給の面で「自立」させることで「孤立」の悪影響を緩和する）、あるいは、健康福祉政策（平素から健康な高齢者を増やすことで、QOL（生活の質）を高めると同時に、発災時の避難能力の向上と災害関連死の抑制を図る）など、狭義の防災施策に閉じることなく、領域横断的で一挙両得となるアプローチを通して、効果的で、かつ効率的な施策を実施すべきであると考えます。

ご意見は以上でございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。矢守委員からは、とりわけ今後、想定される大災害も含めまして、広域的な対応の必要性、これが大変重要であることをご指摘いただきました。あわせて、身近な地域、あるいは一人一人のレジリエンスのようなものをどう高めていくのか。総合的な観点から検討が必要なのではないか。これも広域連合ならではの対応の仕方があり得るのではないかということでご意見をいただきました。この点、また防災担当の委員からもコメントをいただければというふうに思っております。

本日、事前にご意見をいただいた委員、また代読をさせていただいたとおりでございますが、意見を提出されていない委員の中でも、今日ここで、ぜひご発言をいただければと思っておりますので、何かご質問、コメント、あるいは、これまでのご意見も含めまして、補足をしたいことなどあれば、ご発言をいただければと思います。挙手をいただければ指名をさせていただきますので、よろしくをお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

はい、どうぞお願いいたします。神戸委員。

[神戸委員]

鳥取から参りました、神戸と申します。昨日、万博、満喫してまいりましたということで、皆様お仕事だけじゃなくてプライベートでぜひ行っていただきたいと思います。タブレットで、スマートフォンで操作していくんです。なるほど高齢になったらなかなか、際どいなんていうことがあったりとか、マスコミはけちゃんけちゃんたたいていますけども、意外にいけているんですよ。いけているのだけど、さらにいかそうと思うなら、ぜひとも皆さん、プライベートで行ってみてください。そしたら、さらなるいいものができると思っています。今から本題です。

先ほど、草野委員がウェルビーイングって話をされました。私も一緒に、看

護師です。実は、この4月1日から各自治体といいますか、東京とか、ほかのエリアでもカスタマーハラスメントに対する対策事業とか、条例をつくってるところがたくさんあります。先ほどおっしゃいましたように、医療とか福祉とか学校の先生、サービス業、そして、外国人の労働者たちは結構、いいものをつくりたいとか、いいサービスを提供したいと思うのだけれども、同じ対等の市民の方からやられてしまうわけです。そうすると結局、心身ともに体を崩れてしまって、ひきこもりになってしまう。もう世の中に出られないとか、そういうことも起きたりします。

なので今日提案したいのは、もう既に、検索とかしていきますと対策事業はあります。関西エリアでも、この大阪や兵庫県にもそういった対策事業がホームページに書いてありました。だけれども、条例まで行くぐらいの結構強い形でしていかないと、今、働く人たちがどんどん減ってまいります。せっかく外国からも日本に来て働こうと思ってくださる方がいらっしゃる。けれども、体がついていかない、気持ちがついていかないということで帰国してしまうとか、ひきこもりになってしまうということであれば、やはり環境づくりというのは、この関西広域連合が、ここで旗振りをしていく必要があるのではないかと考えております。

以上になります。よろしくお願いいたします。

[新川副会長]

ありがとうございました。

エッセンシャルワーカーの方々中心にした、こうした職場環境、あるいは社会的な対応の仕方ということについて、カスハラの問題、これ大きく取り上げられているところでございますけれども、この辺り関西全体としても、もっと検討を進めてもよいのではないかとということで、ご意見をいただきました。ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。前迫委員、よろしくお願いいたします。

[前迫委員]

資料2を拝見しておりまして、自然災害に対する減災・早期復旧についてということで、意見をおっしゃっておりまして、それに対して関西広域連合の考え方・対応が出ております。私も実は、伊吹山が2年続けて土砂災害が起きましたときに、この広域連合でも少し発言しようかなと思っていたのですが、これは私ではなくてほかの方がコメントをしておられまして、ちょうど私も同様に考えているところですので、これに関連して少しコメントさせていただければと思います。

この関西広域連合の考え方が、これからも災害対策を働きかけていくとコメントされているのですが、伊吹山に関係して言いますと、ただ単に、土砂災害が起こったというだけではなくて、やはり鹿の影響というのがかなり大きいと。その調査を去年ぐらいからやり出しているのですが、まだ私自身の調査研究が途上にあるので、ここで大きなことは言えないのですが、恐らく、当初平地にいた鹿が山地、上の方まで伊吹山にやってきて、3合目辺りはもともと薬草とか作っておられて、今も産地草原が成立しているのですが、そういった伊吹山全体が鹿の密度が非常に高くなっている。これは伊吹山だけの問題だけではなくて、日本全国、釧路湿原でも鹿が出て大変ですし、南アルプス、北アルプスもそうですし、関西で言えば、もう大方のところは鹿が入って大変な状況にあるという状況でございます。

ということで、コメントとしましては、もちろん災害というのは自然災害、土砂災害、色々な災害がございますけれども、その中の伊吹山が今ちょうど例に出しておられますので、鹿の過密度化による土砂災害とか、深層崩壊以外の斜面崩壊ですね。そういうものが非常に影響している場合も多いと。これはまさに、自治体に任せているだけではなくって、鹿は地域をまたいで移動したりもしますので、三重県にいたと思ったら隣の和歌山にも行くしという、滋賀県にいたと思ったらそれが京都にも、あるいは福井県のほうにも行くという

状況にございますので、ぜひ広域連合のほうで、鹿対策というただ単に植物を食べるから駄目だと、生物多様性劣化につながるから問題だというだけでなく、まさに災害にもつながっていくような状況にございますので、もう取り組んではおられますが、さらに、広域的な対策をしていただければ大変ありがたいと思っております。

以上でございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。前迫委員からは獣害、特に、鹿の食害を通じまして、実は山地の環境が大きく侵害をされ、そして、土砂災害等も引き起こしているのではないかとということでご指摘をいただきました。これもまた後ほど環境、それから、災害に関わる委員からもコメントをいただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

そのほか、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、大分、時間も押してまいりましたので、ここからは、各委員からいただきましたご意見、そして、各委員からの様々な観点からのコメント、色々な立場からのお話をいただきました。これらにつきまして、連合委員、また、副委員の皆様方からそれぞれコメントをいただければというふうに思います。

あらかじめご提出いただいたものに加えて、追加をして自由にご発言いただいたところもございます。可能であればそちらにも、触れていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、順番で大変恐縮ですが、西脇京都府知事、副連合長でいらっしゃいますが、観光・文化ご担当ということで、まずは口火を切っていただけますでしょうか。

[西脇副広域連合長]

失礼いたします。広域観光・文化の分野を担当しております副広域連合長、京都府知事の西脇でございます。

ご提案の内容にお答えする前に、少し大阪・関西万博にかかります、京都府の取組について、ご紹介をさせていただきたいと思っております。

関西パビリオンの京都ゾーンは、おおむね1週間ごとに展示を入れ替えることとしておりまして、現在は茶道・華道のオープニングイベントを実施中でございます。13日の初日は雨にもかかわらず、数多くの方にご来場いただきまして、特に、呈茶体験は非常に人気がございます、呈茶のチケットを配布する際には、ブースが人でいっぱいになるようなことで、非常に好評いただいております。

それから、昨日は、シャインハットにおきまして、EXPO KYOTO MEETING、副題を「和のこころと地球の未来」としてありますが、開催いたしました。国内外から著名な登壇者の皆様にお集まりいただきまして、命と心がつくる文化と環境など、五つのトークセッションを設け、これからの世界の在り方について、京都から世界へ問いを発信するということで行わせていただきました。府内の高校生が司会を担当し、オープニングやトークセッションの間には、学生による吹奏楽やダンスパフォーマンスも披露させていただきました。イベントの最後にユースステージを実施いたしまして、1日を通じて、若者の皆さんに活躍していただいたということで、そこはよかったと思っております。

それから、来週からは多目的エリアで、MEET UP KYOTOと題しまして、物産やステージイベントを開催し、特産品の販売や、伝統芸能から先端技術までの幅広いステージパフォーマンスを披露したいと思っております。先になりますが、秋にはKYOTO FOOD EXPOと称し、お茶、お酒、食をテーマに、府内各地の食の魅力を伝えてまいりたいと思っております。

それから、これは万博会場ではありませんが、京都駅の駅ビル2階の南北の自由通路の北側に、17日に万博関連の情報発信拠点、「EKI spot KY

OTO」というものをオープンいたしまして、そこに行けば、京都府内で開催される様々な関連イベントの情報を専属のスタッフが案内し、また、万博会場の情報を得たい場合も、そこに行けば、相互に情報を提供するとなっております。府内各地でもう既に始まっている「けいはんな万博」や「きょうとまるごとお茶の博覧会」をはじめ、様々な催しを企画しておりますので、そうした情報も一元的にゲートウェイとして、京都駅から発信したいと思っております。

以上が紹介でございます。

それでは、世良委員から文化に関するご提案をいただきました。

少し重複しますが、ご紹介がありましたように全国高等学校総合文化祭は昭和52年以降、毎年、文化庁と学校の連盟と、開催の自治体が主催で、毎年、芸術文化活動を発表する場を提供しておられます。吹奏楽、郷土芸能、美術工芸、弁論など、これは生徒さんが日頃の鍛錬の成果を発表できるということと、それから全国の生徒相互の交流、親睦も図れるということで、非常に大きな役割があると思っております。

少し紹介がありました、昨年の弁論部門の優秀賞、最優秀賞は、いずれも、自分自身のそれぞれの経験を通じて成長する中で、周囲との関係を見つめ直すということが、非常にストレートに分かりやすく表現されたと思っております。障害を持っている人々とか、家族との関係に悩む若者に勇気や希望を与えるメッセージだったと思い、感銘を受けました。

私は野球部で、運動部ですけれども、文化部の活動というのもやはり学校教育の一環でございますし、生徒同士とか教師と生徒の人間関係の構築を図るということもありますし、生徒自身が活動を通して、自己肯定感を高める効果があるということで非常に重要だと考えております。

それで、弁論の話がございましたので調べましたら、関西広域連合構成の8府県で、昨年、一昨年は、京都、大阪、兵庫、徳島が、弁論に参加しておらず、あと残りの四つが参加しているということです。いろいろ聞いたところ、弁論部という部の部員数や指導者の問題と、大体、毎年開催要領を、それぞれの都

道府県でつくっておまして、これはおそらく教育委員会とも一緒にやっているとありますが、その中に弁論を入れようとする、それをお世話する学校、先ほど紹介がありました膳所高校とか、それに参加するほかのいろいろな学校がいるということなので、すぐに、参加しますと言っても、いろいろな手間がかかると思うのですが、いずれにしても全国の分布を見ると、関西地区は若干参加が薄いような気がします。せっかくのご提案ですので、私どものほうから実際どういう感じなのか、過去出ていたけれどやめたのか、それともずっと出てないのかとか、弁論部が存在することはまず間違いないと思いますので、少し調べさせていただきたいなというふうに思っております。いずれにしても、貴重なご提言と思っておりますので、ありがとうございました。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。ぜひ関西広域連合でも高校総文に向けて、しっかりとご支援をいただければと思います。ありがとうございました。

続きまして、奈良県副知事、福谷副委員からコメントをいただければと思います。

主には、職員研修、あるいは、行革のご担当ということになってございます。よろしくお願いいたします。

[福谷副委員]

奈良県の福谷でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。たくさんのご意見ありがとうございました。

ご紹介にありましたように、奈良県の方は職員研修等の担当で、直接、本日の各委員さん方のご意見の中には入っておりませんが、自由な意見で結構ですよというお話でございましたので、3点ほどお話をさせていただきたいと思います。

まず、奈良からお越しの清水委員のご意見でございます。食品ロスの削減に

ついてということで、本県では、令和3年3月に奈良県食品ロス削減推進計画を5か年計画として策定をしております。普及啓発、未利用食品の活用に取り組んでまいりました。具体にはウェブによる情報発信、また、大型ショッピングモールでのイベント開催による普及啓発。農産物の直売所等で生じた未利用農産物のこども食堂への提供、フードバンク活動団体に対する支援などがございます。

第1期が今年度で終了いたしますので、令和8年度から令和12年度の5か年を対象に、今年度2期の削減計画を策定していきたいと考えております。現状の食品ロスの認知度や意識などの調査を実施し、次期計画の内容に反映させるほか、食品は、生産、流通、販売などの過程で二酸化炭素が排出されること、食品廃棄による焼却処分など様々な段階で温室効果ガスが排出されることなどから、フードロスと廃棄を減らすこと自体が脱炭素に直結すると考えております。こうした観点からも、次期計画を検討し、啓発を進めてまいりたいと考えております。

2点目でございます。市場委員からの災害ごみを減らす対策の必要性について、私は県の職員から今の立場になったのですがけれども、長らくその廃棄物の所管をしております、平成23年に紀伊半島大水害のときにかなりの災害廃棄物が出て、もちろんその後の震災の量からすると、そんなに多くはなかったのですがけれども、災害廃棄物の処理について実感をした立場からお話をさせていただきたいと思います。

ご意見にもありました、未使用品であるとか、家電製品などの退蔵品の処分を促す施策は、非常に重要であると認識しております。本県では令和5年3月に奈良県廃棄物処理計画において、退蔵品の処分に効果的なリユース、リサイクルを含む3Rの一層の促進を目指しております。各事業を通じて3Rの考えを県民へ継続周知をしておるところでございます。なお、本県が策定しております奈良県災害廃棄物処理計画によりますれば、関西一円に甚大な被害をもたらすことが予測されます南海トラフ地震が発生した場合、県内の災害廃棄物の

発生量は最大500万トンに及ぶと見込んでおります。これに対して本県では県市町村、関係団体などで構成する奈良県災害廃棄物対策連絡会を設置し、平成28年度以来、合同で教育訓練を実施をすることで災害廃棄物への対応能力の向上と、広域的な相互支援体制の整備につなげているほか、様々な関連施策により、災害廃棄物対策を推進しておるところでございます。この部分については、今後、本当に発生する南海トラフのことを考えますと、非常に重要なポイントであろうと考えております。

最後に3点目でございますが、青木委員からお話がありましたように、昨年11月、奈良市内で大学生等との意見交換をさせていただきましたして、連合長も参加をいただき、また、本県の山下知事も参加し、青木委員、岡田委員らの前で、政策提案プレゼンテーション、構成団体の若手職員も加わっての意見交換、交流会を実施するなど、非常に活況を呈したと聞いております。また、最優秀賞を受賞した政策提案に「つながるキャンパス、広がる未来～広域大学連携による良質な学びと充実した大学生活の提供～」についてということで、先ほど連合長のほうから、連合長がこちらを見られまして、「検討するよな」ということを言われましたので。言われたからではございませんが、その実現が図られるよう検討を進めることとしておりますので、改めてご報告をさせていただきます。

以上でございます。ありがとうございました。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。食品ロス、それから、災害ごみにつきまして、奈良県での取組をご紹介いただきました。また、大学生との意見交換会での成果、これを広域連合としてどのようにこれから広げていくのか、着実に進めていただけたようなお話しをいただきましたので、期待をいたしております。よろしくお願いいたします。

それでは、引き続きまして、徳島県副知事、志田副委員から、主なご担当は医療分野でございますが、コメント等いただければと思います。よろしくお願いいたします。

[志田副委員]

広域医療局を担当しております、徳島県の副知事の志田でございます。

草野委員さんのほうから、医療福祉現場におけるウェルビーイングの実現というご提案をいただきました。医療提供体制を確保する上で、何と申しまして、やはり人材確保が一番重要ですが、関西の各地域の医療現場でやはり、医師不足をはじめとして、人材確保には苦慮しているというような状況でございます。その一方で、ワーク・ライフ・バランスを考えて職場を選択するという医療従事者の方も、かなり増えてきているというのも実態でございます。そういう意味も含めて、広域連合の構成府県市それぞれ、医療従事者の確保に向けて働きやすい職場づくりに取り組んでいるところでございます。少し例を申し上げますと、例えば、和歌山県さんにおいては、全国有数のリゾート地であります白浜を中心にワーケーションの先進地であることをアピールされ、令和6年度から、和歌山医療版のワーケーションとして、ドクターが休日などの一定期間、和歌山県内で勤務する場合には、その宿泊費や交通費等を補助する事業というの也开始されております。徳島県でもこのような和歌山県さんの例を参考にさせていただいて、今年度から徳島県としてのメディカルワーケーションの取組を進めることとしております。

そして、一つまた徳島の例を申し上げますと、徳島の南部地域、いろいろサーフィンのスポットがございます、気軽にサーフィンをしながら、仕事をできるという環境にあります。県立の海部病院を核として、仕事とサーフィンの両方を楽しむことができる、サーフ・ホスピタルというような形のアピールをしているところであり、この11月には全国医療従事者サーフィン大会を開催するということも含め、新しい医療現場のワーキングモデルというのをアピール

していきたいと考えております。

広域連合におきまして、こうした各構成府県市の色々な特徴的な事例を共有するとともに、医療従事者の方やドクターにポッドキャストというインターネットを通じて音声配信する、新たなツールもどんどん普及しているようなこともございますので、このようなポッドキャストなどの新しいツールも使って、関西の色々な医療現場でこのような形の働き方ができますよというような、楽しく仕事ができる魅力ある職場ですよというようなことを、広域連合の色々な事例を発信していきたいと考えております。こうした取組を進めることによって、医療従事者の方々から選ばれる関西を目指していきたいと思っております。

それから、青木委員からいただきました、若者世代による意見交換。これが一巡して、来年2月は10回目、徳島で開催ということになりますので、ご提言にもありましたように、継続しながら、そしてまた中身をさらに充実させるということを心がけて取り組んでいきたいと思っております。

万博の関係ですけれども、関西パビリオンの徳島ブースに来ていただきましたら、自分が踊る姿を見られたり、藍染めも体験できます。そしてまた、徳島ブースでは、ワンコインキャンペーンとして500円で徳島まで行っていただけ的高速バスの割引チケットも配布していますので、皆さんぜひ関西パビリオン、そして、徳島ブースへお越しいただけたらと思います。よろしくお願いします。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。志田副委員からは関西万博、徳島の取組、また、特に、医療福祉従事者の方々のワーク・ライフ・バランスや、あるいは、働きやすい職場づくりに向けての様々な試み、各府県の試みをお話いただきました。関西広域連合としても、こうしたそれぞれの取組というのを、全国に発信をしていく、お互いに、そうした情報を共有してよりよい職場環境をつくっていく。その辺り、今後さらに進めていただければと思います。なお、今年

度は大学生との意見交換会、徳島だそうでございますので、大変ですがまた、よりよい意見交換会になればと願っております。よろしくお願いいたします。

続きまして、京都市副市長、竹内様に来ていただいております。竹内副委員から、主には観光・文化担当でございますが、コメントなどをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

[竹内副委員]

京都市副市長の竹内でございます。

京都市は、観光・文化・スポーツ振興担当の副担当を務めさせていただいております。本日は、本市の取組についてご紹介させていただきます。

京都市では昨年度に夜間の観光を楽しむナイトタイムエコノミーの推進としまして、文化庁からも補助をいただきながら、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館、滋賀県立美術館、関西経済連合会をはじめとした経済界で組織する実行委員会で、美術館の夜間活用を広域で展開するという取組をいたしました。今年度もさらに効果的な事業展開になるよう検討準備を進め、ナイトタイムエコノミーをはじめとする美術館と経済界のタイアップによる新しいビジネスモデルの確立、文化芸術に対して経済界が投資するような潮流をつくっていきたいと考えています。

構成府県市におかれましても、それぞれ地域において様々な取組がされておりますが、大阪・関西万博の開催契機を捉え、関西全体の活性化につなげて、京都も貢献していきたいと考えております。引き続き、広域連合、国とも一層連携して取り組んでまいりたいと思います。

それから、世良委員からのご意見は、先ほど副連合長からお話しいただいております。そのとおりでございます。それから、ウェルビーイングについて、草野委員、神戸委員からいただいております。こちらについて、若干申し上げますと、京都市では今年3月に令和9年度までの取組をまとめた新京都戦略を策定させていただいております。

その中で掲げているものの一つが、ウェルビーイングなまちを目指していこうということでございます。特定の分野で働く人についてのウェルビーイングのお話をいただいておりますが、京都市でもそういった方々に加えて、市民生活全体、全ての人に居場所と出番があるウェルビーイングなまちをつくっていくことを掲げております。

もう一つがウェルビーイングの見える化も検討していこうとしております。こうしたウェルビーイングに関する取組を皆様と共有させていただくことを通じて、関西全体のウェルビーイングの向上にもつなげていきたいと思っております。

以上でございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。

観光・文化分野では、美術館等と連携した夜間開設に向けての様々な取組をご紹介いただきました。大阪・関西万博も含めて、こうした取組、さらに広がっていけばと願っております。また、医療福祉従事者の方を中心にしたウェルビーイングの問題につきましても、見える化が必要だということで、今後さらに、こうした施策も、相互に関西圏で情報交換しながら、一層の推進が図れればと願っております。どうもありがとうございました。

続きまして、大阪市副市長の山本様から、副委員をご担当いただいております、産業、それから、万博につきまして、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

[山本副委員]

大阪市は広域産業振興と大阪・関西万博の副担当をさせていただいております。

岡田委員からのご質問につきましては、後ほど、広域産業振興主担当の大阪府のほうからご回答を申し上げます。

私のほうからは、直接ご質問と関係はしませんが、大阪・関西万博に関する大阪府市の取組2点につきまして、発言をさせていただきます。

改めてでございますけれども、皆様方からの多大なるご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

一つ目は、「明日の万博情報」についてでございます。4月の12日から、「いっしょに、いこな！大阪・関西万博」というホームページで翌日の当日券販売の有無、あるいは混雑状況など、万博の最新情報をワンストップでお知らせさせていただいております。先ほど神戸委員から万博へのお誘いをしていただきまして、本当にありがとうございます。ぜひ、まだお越しになってない皆様方にはご来場いただきたいと思いますのですが、その際には、この「いっしょに、いこな！大阪・関西万博」のホームページをぜひ、ご活用いただきたいと思いますっております。よろしくお願いいたします。

2点目は、「大阪ウィーク」についてでございます。万博会場内では日々、様々なイベントが開催されるのですが、大阪府市といたしましては、5月9日から「祭」をテーマに、お祭り好きの大阪ならではのイベントといたしまして、「大阪ウィーク」を実施いたします。大阪府内の市町村とも力を合わせ、大阪の魅力を国内外の来場者に広く発信してまいります。関西広域連合をはじめ、関係先の皆様と連携し、万博の成功に向けて、より一層取り組んでまいりますので、引き続きのご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

以上でございます。ありがとうございました。

[新川副会長]

ありがとうございました。万博中心にご紹介をいただきました。ぜひ、万博、皆さんも見ていただければと思いながら、お話を聞いておりました。ありがとうございました。

続きまして、堺市副市長、佐小様、副担当としては産業分野でございますが、ご発言、コメントございましたら、お願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

[佐小副委員]

広域産業振興の副担当でございます。堺市の副市長、佐小でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

ここで皆様のご意見をお聞きし、私自身の課題として一つ一つ受け止めまして、これを持って帰り、自分なりに考え、市政に生かしておるという貴重な機会でございます。皆様ありがとうございます。

岡田委員からデジタル人材育成と人材不足について、ご意見を頂戴しましたので、そこで本市の一例でございますが、このような取組もございますということをご紹介させていただきたいと思いますが、その前に岡田委員からも冒頭、女性活躍のお話もございましたので、一つ本市の女性活躍の取組をまずご紹介させていただきたいと思います。

本年２月からですけれども、本市で女性活躍推進、ワークライフマネジメント等に取り組む企業様に対しまして、日本政策金融公庫と連携し、通常より低い特別利率で融資を受けられる実質的な金融支援制度というのを開始しました。これは日本政策金融公庫の地域活性化雇用促進資金を活用しており、堺市と日本政策金融公庫の間で、当該融資制度を活用した連携というような取組でございます。このような取組をしている中で、お話のございました、デジタル人材育成と人材不足についてコメントさせていただきたいと存じます。

関西広域産業ビジョンでは、域内企業の経営方針の視点として、デジタル活用の持続的推進をお示しし、多様な人材、個性の集積、掛け合わせが新たな価値を創出し、関西産業の競争力を強化する。これを、関西全体で目指しております。堺市におきましても、企業のデジタル化等による生産性向上は喫緊の課題となっております。ＩＴ人材が不足している状況の中で、女性を含めて多

様な人材が活躍できるよう、今年度から新たに求職者のデジタルスキル向上に向け、ITパスポート試験というのがございますが、ITパスポート試験対策講座を開講し、資格取得に向けた支援を開始予定でございます。本講座は、好きな時間に学習できるeラーニングコンテンツの活用をしております、岡田委員からご意見もございました、社会に出られていない人にも受講をいただける環境を提供することで、多様な方の受講とその後のデジタル人材としての活躍を期待しております。

あわせまして、これは一つ講座だけではなくて、本市の既存の就職・転職を支援する既存事業がございますので、それと連携しまして、受講者に対して市内企業との人材マッチングなど、就職支援を一体的に行うことで、まさに関西のデジタル人材の育成雇用の維持拡大に寄与し、貢献していこうというところで考えております。

以上でございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。

ただいま、佐小副委員からは、特に女性活躍、またデジタル人材育成ということにつきまして、堺市の事例も含めて、ご発言をいただきました。ありがとうございました。

続きまして、大阪府政策企画部長、川端様から大阪府ご担当の産業、エネルギー、プラスチック、あるいは万博につきまして、コメントなどをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

[川端部長]

大阪府政策企画部長の川端でございます。委員の皆様方におかれましては、様々な観点から、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、大阪・関西万博について、温かいエールをいただいて非常に元気づけ

られたところです。そちらについても感謝申し上げます。私のほうからは、先ほど堺市の佐小副委員からも堺市の取組について、ご紹介ありましたけれども、岡田委員からご意見のありました、デジタル人材育成と人材不足について、大阪府が担当を務めております広域産業振興分野の観点から発言させていただきたいと考えております。

まず、国においても、デジタル田園都市国家構想総合戦略に基づき、2022年度から26年度末までに、デジタル人材を230万人育成するという目標を立てられました。公共職業訓練であったりとか、求職者支援訓練等におきまして、デジタル分野の訓練コースの多様化、eラーニングなど、充実化が図られているというところがございます。広域連合におきましては、先ほども少しご紹介あったのですが、関西広域産業ビジョンにおきまして、産業を支える多様な人材が活躍する関西を将来像に掲げまして、デジタル技術も活用し、場所や形態にとらわれない、個性豊かな働き方の実現を取組アイデアとしてお示しして、府内の府県市や企業等と共有をしているところです。

府内の各府県市におきましては、この方針の下、地域の実情を踏まえながら、女性や高齢者、障害のある方なども対象にしたデジタル分野の職業訓練の充実が図られております。例えば、大阪府におきましては、職業技術専門校を設置しておりますが、こちらで基礎的なパソコンのスキルから、ウェブプログラミングなど、多岐にわたるIT関連の訓練を実施しております。

また、ご指摘もありましたように、企業にとっても人手不足が喫緊の課題になっております。今後、企業が持続的に成長していくためには、そういうデジタルを活用した場所や形態にとらわれない多様な働き方や生産性向上に向けた環境の整備が重要であると認識しており、広域連合におきましても、DX化や多様な働き方の推進などに取り組む企業の先進的な事例につきまして、我々のほうで発行しております、ビジネス情報紙「from NOW ON KANSAI」でご紹介するほか、構成府県市が実施するDXセミナーであったりとか、DXに係る相談、伴走支援の事業について、域内の企業の皆様であれば誰

でも参加できるような、協調事業という形で実施し、関係機関の取組を促しているところでございます。今後とも、構成府県市や経済界、域内企業など、関係者の皆様と連携しながら広域産業ビジョンに掲げます、デジタル活用の持続的推進に向けて取り組み、多様な人材が活躍できる関西の実現を目指してまいります。

私のほうからは以上でございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。ただいまデジタル人材の育成、女性や高齢者、あるいは障害者の方々含めて、関西全体としての戦略、また、各府県市での取組等々につきまして、ご紹介いただきました。また、域内企業の皆様方のニーズにどう具体的に答えていくのか。この辺りも関西全体でまたしっかりと進めていただければと思いながら、お話を聞いておりました。よろしくお願いいたします。

続きまして、兵庫県防災監でいらっしゃいます、池田様から担当の防災分野につきまして、コメントなどをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

[池田防災監]

兵庫県防災監で関西広域連合の広域防災局長を拝命しております、池田でございます。よろしくお願いいたします。

先ほど、防災の関係で言いますと、和歌山県の市場委員様のほうから災害ごみの件でお話がありました。また、奈良県の福谷副知事のほうからもご回答いただいたところございますが、若干付け加えさせていただきますと、関西広域連合におきましても、廃棄物の削減、そして、早期円滑な処理ということにつきましては、被災地の早期復旧復興に極めて重要であると認識しているところでございます。

一方で、これまでは処分をどうするかと、大量の瓦礫等が発生する中、処分をどうするかということが防災面のほうでの取組というところでございます。関西防災・減災プランの中で、府県域を越えた広域での災害を想定した災害ごみの受入れの仮置場や最終処分場の確保、あるいは、事後の土木資材等としての活用について、再活用等を定めているところでありますし、また、あわせて、国に対して、災害廃棄物の処理計画の策定に関わる市町村の計画策定支援についての提案を実施してきたところでございます。引き続き、国に対して、災害時の廃棄物処理に関する取組の体制、体制強化に向けた取組について働きかけを実施していきたいと思っておりますし、関西広域連合としてもその取組を進めてまいります。

また、委員からご指摘のありました家庭における退蔵品の適切な処分などというところも非常に大事であると考えております。これは広域防災局というよりは、広域環境保全局のほうで、3R推進シンポジウムというようなものも開催をし、いわゆるリユース、リサイクルなどということでライフスタイルを変えていこうというような、災害時のごみの削減にもつながるような取組を、実施していただいているところであります。

今後は、引き続き、環境面からのSDGsの取組と併せまして、事前防災の一環として、日頃からのいわゆるごみとなるようなものを減らしていこうという取組について、どのようなことができるのかというのは、構成団体等とも話をしながら取り組むなど、広域での災害対応の体制の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、今日ご不在ですが、矢守委員から効果的、効率的な防災施策の実施ということで、ご意見をいただいたところであります。

高齢化社会の進展により災害時の要配慮者をはじめとする、被災者への支援所要が増大する一方で、基礎自治体がスリム化され、なおかつ、職員も自ら被災するという可能性もあるような状況の中で、広域連合といたしましては、自治体間における広域での応援・受援体制のさらなる充実が必要であると考えて

おります。広域連合といたしましても、これまで被災地支援の経験を踏まえまして、関西圏域内でのカウンターパート支援体制について、防災人材の育成事業なども含めて充実を図りますとともに、民間事業者との連携協定に基づく訓練などを行っております。引き続き、防災減災の体制の強化に努めていきたいと考えております。

また、構成団体における孤立地域対策や生活インフラの強靱化に加え、連合といたしまして、国等への関係機関と連携した被災地支援や広域防災体制の強化にも引き続き、取り組んでまいります。さらには、現在、防災庁の設置に向けた動きが進んでおりまして、先般1月には三日月連合長から瀬戸内閣府副大臣に対して、防災庁に期待する機能と、関西への拠点設置について要望をさせていただいたところであります。引き続き、積極的な意見の提出とともに、防災庁との連携体制を構築してまいりたいと考えております。

また、要配慮者を減らすということも、そもそも必要でございまして、平素からの取組として各構成団体等において、健康福祉政策の一層の推進が図られておると認識をしておるところであります。

防災上も、社会インフラの強化や事前備蓄などをはじめとする孤立地域対策に取り組むなど、分野横断的な取組によって、高齢化社会における効果的、効率的な防災体制の構築を進めてまいりたいと考えております。

そして、3点目ですが、前迫委員からございました、伊吹山の土砂災害に関連してでございます。森林などの植生といったような環境保護の取組に合わせて、昨今の地球温暖化による降水量の変化など、こういった環境の変化にもしっかりと対応するための砂防設備の整備や維持といったところのハード対策も併せて、並行して、しっかりと取り組んでいく必要があると考えております。

ご意見いただきました部分については、環境面の取組と防災の取組を並行して行うことが必要かと考えておるところでございます。

以上、関連したご意見をいただきまして、ありがとうございました。

また、兵庫県といたしまして、万博関連につきましては、それぞれご説明が

あったかと思います。ぜひ兵庫県の万博ブースにもお越しいただきたいと思っておりますし、広域防災といたしましては、災害時には大量の帰宅困難者が発生するという事で、大阪市、そして、大阪府の対応に加え、さらに広域での対応が必要な場合については、構成団体から食品などの物資の提供、さらには帰宅支援のための輸送、民間の輸送、企業との、輸送事業者との協定がございますので、それらに基づく輸送手段の提供などのバックアップをするという体制を、構築をさせていただいております。

兵庫県としましては、万博を通じた観光周遊として、万博会場だけではない地域に、兵庫県ではフィールドパビリオン等も展開をしておりますので、ぜひ体験型の各地域での取組に足を運んでいただければと思っております。

以上でございます。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。

防災という点ではやはり、環境面、また、福祉あるいは、健康面、様々な分野との連携や、あるいは総合的な対策というのを考えていかざるを得ない。そのことが災害ごみの削減や、あるいは、土砂災害の防止といったようなことにもつながってくるということだろうと思っております。ぜひ広域連合としても、そうした視点での対策を積極的に、とりわけ、防災担当の側からも働きかけを進めていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

引き続きまして、本日、和歌山県企画部長、北村様においでいただいております。担当部門が農林水産部門でございます。コメントなどをいただければと思いますが、いかがでしょうか。

[北村部長]

和歌山県の企画部長の北村と申します。コメントの前に冒頭で、当県の岸本周平知事に対しまして、黙祷の時間を設けていただきまして、誠にありがとう

ございました。心より御礼申し上げます。

農林分野のご質問、ご意見はございませんでしたので、本県から来ていただいております委員の方々のご意見に対してのコメントを簡単にさせていただきたいと思っております。

まず、市場委員から災害ごみを減らす取組に関してご意見いただいておりますけれども、これに関しましては、災害発生時にごみが少ないにこしたことはないということでございますので、防災・減災の取組というのは、ふだんから日常生活の中で準備をしたり、今回ご意見いただきましたように、ごみを減らしていくというようなことを日頃から取り組むということが非常に大事なことかと考えてございます。

岡田委員からデジタル人材の育成と人材不足についてご意見をいただきまして、女性の関係でデジタル活用という、デジタルの人材育成ということ以外にも考えられるのではないかなというようなご意見をいただきました。当県におきましても障害者の方々などの社会進出のほうに、デジタル技術を活用することができるのではないかなというようなことで考えているというところでございます。

また、生前、知事のほうからは、生成A Iの登場によって、教科書を読んで覚えたり、あらかじめ答えのあるような問いを解くようなことというのが、もうどんどん意味がなくなってくるのではないかなということで、子供たちの教育に関してもこれからデジタル人材、A Iも踏まえて考えていかなければならない、問いをつくるような能力だったり、あるいはeスポーツにも力を入れておりますが、このようなことを活用して能力形成していくということが重要ではないかなということで取組を始めたところですので、ご紹介をさせていただきます。

以上です。

[新川副会長]

ありがとうございました。和歌山県からは、災害ごみの対策、また、デジタル人材の養成の取組についてご紹介いただきました。ありがとうございました。

引き続きまして、鳥取県、戦略本部長の櫻井様、ご出席いただきありがとうございます。鳥取県ご担当、ジオパークでございますが、何かコメントなどをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

[櫻井本部長]

鳥取県の櫻井でございます。本日は平井知事、副知事ともに所用により代理で出席させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

担当しているジオパークの関連につきましては、ご意見等ございませんでしたが、神戸委員のほうから、関西万博をよりよくというご趣旨のお話がありましたので、鳥取の取組と、関西広域連合における万博におけるジオパーク関連の取組の2点について、話をさせていただければと思います。

関西パビリオンの鳥取ゾーンにおいて、「まんが王国とっとり」として青山剛昌先生、水木しげる先生、谷口ジロー先生の作品のキャラクターを前面に打ちまして、その奥に、鳥取砂丘から10トンの砂を持ち込み、周りをガラスで囲んで無限砂丘というものを作り、そこを虫眼鏡型のデバイスで探検をしていただいて、鳥取の魅力を発見していただいて、プロジェクションマッピングで鳥取の映像を流すというような形になっています。

中東にヨルダンという国がございまして、この国のパビリオンは「スター・ウォーズ」の撮影場所とか「アラビアのロレンス」の撮影場所になった、ワディ・ラム砂漠というところの赤い砂を22トン持ってきており、ここも周りを360度映像で囲みまして砂漠を表現していると。ネット上では、企画が丸かぶりしているのではないのかと、まさに砂かぶりになってしまいまして、初日に、鳥取県のほうからヨルダンに直撃し、連携しませんかという話をしたところ、ぜひぜひというようなお話しをいただきました。昨日、サンド・アライアンスという締結式を万博会場のプレスセンターで平井知事とシファ政府代表で結ば

せていただきました。砂で連携して盛り上げていこうということで、今後、スタンプラリーとか、ほかのところを訪れると何かもらえるというような、スタンプラリーならぬ、砂ンプラリーですとか、鳥取は7月1日が鳥取デーですけれども、ジャマイカのナショナルデーなど、そういうところに相互に出向いていたりですとか、そういった形で盛り上げていけないかと。やはり、外国のパビリオンとの国際交流というのは万博の花であり、醍醐味です。今回、パビリオン同士で連携協定を結ぶのは初めての試みかと思うのですが、知事はよく、「砂で砂がご縁」ということで、これを大事にして、関西パビリオン、さらに万博全体を盛り上げていきたいと思っております。

また、先ほど兵庫県さんからのフィールドパビリオンという話がございました。鳥取も同じように、鳥取全体をパビリオンに見立てて周遊していただくというような仕掛けをつくっておりますので、鳥取、兵庫も連携して、また、関西全域に、万博にいらした方が回っていただくような仕掛けをこれからもやっていきたいと考えております。

また、万博におけるジオパーク関係ですが、令和6年10月に、日本のジオパークに徳島県の三好ジオパークが認定されました。これで管内では山陰海岸、京都、兵庫、鳥取のものと、和歌山の南紀の熊野のジオパーク、三つのジオパークが出てきております。令和3年から海外旅行者の方、旅行関係、メディア関係のファムトリップをやってまいりまして、昨年度は万博を契機に関西を周遊していただこうと、ジオパークの旅行商品の造成に取り組んできております。

ジオパーク、地球の動きで現れたということで、温泉ですとか、食ですとか、様々なアクティビティですとか、やはり魅力あふれるツーリズムというものは、訪日の外国人の方にも刺さるものではないのかと考えており、この万博は絶好の機会だと考えております。

今年度、万博の来場者の方に会場内で三つのジオパークのパネルの展示ですとか、会場を結んでいるバスの中で映像を流したり、デジタルサイネージを流してみたり、また、中で出展をしてみたり、様々な形でこのジオパークのアピ

ールをしていきたいと考えております。

以上でございます。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。鳥取の砂、これが万博の会場でもさらに大きく広がっていく。さらには、関西圏にありますジオパーク、これらが連携をして、これからの関西圏を中心にした様々な学びや、あるいは、産業文化の発展に貢献をしていく。それをまた万博の会場も通じて広げていっていただく。そういうご報告をいただきました。さらに、関西のジオパークが多くの方々の注目を浴び、そして、その価値というのを様々な活用できる、そうした取組を進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、最後になりますが、三日月広域連合長からコメント、あるいは、ご担当は環境分野でございますが、総括含めてお話しいただければと思います。よろしくお願いいたします。

[三日月広域連合長]

ありがとうございます。多くの方々から、色々な分野のご提言等をいただき、こちら側からも様々なコメントをさせていただきました。

岸本さんがいたら、どんなこと言われたかなと思いながら、座って聞いていました。前回、昨年9月の第27回の協議会で、岸本さんのおっしゃったこと覚えてらっしゃる方もおられるかもしれませんが、最低賃金がそれぞれの地域ごとにあるなんておかしいのではないかと。全国一律にしてもいいのではないかとということや、パチンコ業界と仲よくしてくださいねということ。パチンコでもらう景品を防災グッズにしてもらって、備蓄してもらって、いざというときには放出してもらってという独特の取組なんかもされていて、きちんと的を射たこともおっしゃるし、それを色々なアイデアで実現しようとしているところは、これからも関西広域連合としても、大事にしていきたいなと思っており

ます。

また、ここに来る前にとあるNPO法人と面会しまして、ぜひ皆さんお調べいただけたらと思うのですが、deleteCという法人がございます。Cを消す、デリートボタンのデリートのdeleteCというNPO法人。2018年にがんと診断された中島ナオさんという方が、2021年の4月20日に38歳で亡くなりました。がんを治せる病気にしようということで、Cancer、Cを消すということで、deleteCというNPO法人を立ち上げられて、がんを消すため、がんの研究をする人たちを支援したいという取組です。

どうやって資金を集めるかというときに、とにかくCにまつわるものを消して、例えば、Cにまつわるものを買っていただいた方から、寄附を募るとか。今、滋賀県のスーパー平和堂ではCがつくものを買っていただいたら、寄附が集まるという、このような仕組みです。例えば、オロナミンCとか、C.C.レモンとかですね。ありとあらゆるCのつくものは、買うと寄附が集まるという、このような取組をしていただいていたたり、コクヨノート、私も使っているのですけれども、皆さんも使われてる方、多いと思います。これは滋賀県でほとんど作っており、キャンパスノートのCを消して、そして、そのノートを買っていただくとか。

例えば、ホテル阪急、ホテル阪神ではチェックイン、チェックアウトにもCがつきますので、そのたびにご寄附が集まるとかですね。そういう仕組みで資金を集められて、例えば、膵臓がんは治療が困難ですが、その研究をされている方に研究費の補助を出すとか、薬の開発をされている方々に支援をするとか、そういう取組をされておられます。

今度、NPO法人の皆さんが広島に行かれるそうです。広島カープとも連携をして、カープのC消したら怒られるのではないかと思います、取組をしようとされているようなので、ぜひまた皆さんの色々な分野でご協力を広げていただけたらと思います。

さて、全体通じて、まだお答えできてないことや、せっかくですので少しコ

メントがあったことについても重ねて申し上げて、総括にさせていただければと思います。まず、前迫委員からいただいた伊吹山のこと、ありがとうございます。私どもも、府県を越えた鳥獣害対策というのはとても重要だと思っています。例えば、伊吹山は岐阜県と、そして、広域連合であれば、府県域を越えて鹿対策などをこれからさらに強力にやっていきたいと思いますので、また引き続き、ご指導よろしくお願いいたします。

神戸委員からカスハラのことをご意見いただきました。ありがとうございます。実は、広域連合内の府県市でまだ、このカスハラ条例を定められている自治体はありません。東京都など、先進的に定められている事例もございますし、例えば、無理な、無茶な要望を店頭や駅、または病院等でなさって、せっかく頑張って働いていらっしゃる方が働けなくなったり、ひどい場合には自殺に追い込まれたりという、こういったこともありますので、どういう取組を、さらにこの広域連合内でもすればいいのかを調べて検討していきたいと思いますので、またぜひ教えていただければと思います。

また、世良委員から総合文化祭のことをいただきました。先ほど、西脇副広域連合長からも答えがありましたが、総合文化祭ではなくて、インターハイは今年、中国地方で、そして来年、近畿地方で行います。実は、滋賀県が総合開会式に当たってしまして、ソフトテニスなどは京都で、そして、バスケットボールや卓球を大阪で、そして、体操や空手を兵庫県で、バドミントンを和歌山県で、ハンドボールや剣道を奈良県で開催していただくという広域開催をやっていただいております。2030年、関西で総合文化祭を行うとすれば、どこかの1府県市で開催するのではなく、広域で実施するようなことも含めて、これからは考えていけばいいのではと思って聞いておりました。今後の検討に生かしたいと思います。

また、清水委員から、万博のフードロスはどうなっているのだという意見をいただきました。実は、私もどうなっているのかは詳しく知らないのですが、この機会に改めて調べたいと思います。ちなみに言うと、E X P O 2025 グ

リーンビジョンというのを策定し、できる限りロスを出さないようにしようという取組をしているそうですが、現実どうなっているのか。例えば、関西パビリオンでは、延べ150人のスタッフが活動してくれているのですが、弁当を外から調達すると、なかなか弁当が来なかったり、衛生の問題があるということで、パビリオンの中に大型冷蔵庫を入れ、冷凍食品をチンして食べられる、日清食品の完全メシというのがあるのだそうです。そういうもので食べるものを調達したりする仕組みもされていたり、和歌山県が関西パビリオンの中で食べ物をご提供いただいています、どれだけ来られるか分からないとロスが出るので、事前予約制にして、無駄なくご提供できるようにしようという、このような取組をされているそうです。例えば、フードバンクとの連携をどうしているのかとか、そういったところを改めて確認して、せっかくの万博でロスがたくさん出ないようにしていきたいと思っております。

市場委員のご意見と関連して、ファッションロスについて。たんすの肥やしの一番多いものが着るもの、たくさんつくってたくさん捨てられているということがあります。これについて、今、私ども環境保全局でこのファッションロス対策をやろうという取組を始めまして、西脇副広域連合長のほうでやっていただいたKANSAI感祭というイベントなどでPRをしたり、万博などでも発信をして、特に、若者はこのようなことにすごく反応してくれます。少し変えればおしゃれな着るものになるというアップサイクルとか、そんなことをこれから関西から率先してやっていけたらいいなと思っております。

加藤委員、ありがとうございます。広域連合、ふんわりとした協議会ではなく、結束のため頑健な広域自治体に進化したらどうだという叱咤激励をいただきました。ぜひ15年たって、国でいまひとつ分権が進まない状況を打破していくためにも、新たな広域自治行政の研究を、もう1回、この時点でやろうではないかと。これまでやってきたこともひも解きながらということを考えておりますので、その中で、また、この関西の目指すべき方向というのを見いだしていけたらと思っております。

辻村委員から、北陸新幹線がどうなっているのかと、心配事が多いのではないかなというご趣旨のお話をいただきました。おっしゃったように、地下水への影響や、トンネルを掘ったときに出てくる土をどうするのかという問題がありますので、施工上の課題として、丁寧に説明してほしいということを申し上げております。

去る3月25日に京都府内の自治体関係者向けに説明会が開催されたということですが、住民の皆さんも大変多くのご不安をお持ちなので、そういった説明会の実施も検討されているということを聞いております。これからも引き続き、広域連合として、そのことを求めていると思います。滋賀県知事なので、米原ルートって言ったらどうだと言う人がいるのですが、要りませんので。北陸新幹線米原ルートは来てほしくないとは私は言っていますので、ぜひまた皆さんのご理解、ご支援をいただけたらありがたいと思っております。米原ルートと言えという人がおられましたら、また言ってください。

大阪・関西万博の視察もしたらどうだというご提案もいただきました。良い話だと思って聞いておりましたがパビリオンの調整と、個々の皆さんのご都合、予約、これを全体ですり合わせるというのは少し難しいかと思っておりますので、お手間ですが、それぞれで予約してみて、そして、行ってみてこうだったよということをこの場で出し合って、今後の関西広域連合の政策につなげていけたらと思っております。ぜひ関西パビリオンにもお越しいただければと思います。

青木委員、大学生との意見交換会、今年度も実施します。そして、一回りして、これまでがどうだったのかという振り返りをすると同時に、やはり私も10回のうち、4、5回出ておりますが、このような若い世代と、行政についてどうだろう、地域をどう考えたらいいんだろう、未来どうやってつくればいいんだろうというのを、かみしもを脱いで、立場も超えて、フランクに語り合うということは、この関西の未来にとって、とっても大事なことだと思っておりますので、ぜひこれからも続けていけるように頑張っていきたいと思っております。今

年度は遠隔で、なかなか行きにくいという人のためにオンラインで動画配信もやろうと考えておりますので、色々な工夫、改善をしながら、やっていきたいと思ひます。

最後になりますが、大島委員から、これは書面で太陽光の再エネの導入促進、ご提言をいただいております。大島委員からもご指摘いただいているように、まだまだできることがあると思ひております。ただ、導入しようと思ひると景観の問題や、地域とどのように共生させるのかという、そういう課題があると思ひております。

和歌山県、徳島県では住宅への太陽光発電設備、蓄電池の導入支援の継続を考えられていますし、京都府でソーラーシェアリングを対象とする支援もされておられます。滋賀県でも再エネの促進区域を定めて、蓄電池や太陽光をさらに導入する嵩上げ支援も考えています。ぜひこのような手法をそれぞれ出し合ひて、いいところは真似をして、課題があるとすれば国に課題克服を提言などもしながら、さらに再エネ導入が進められるように、広域連合としても頑張っていきたいと思ひます。

矢守委員から、地域のこういったエネルギー面での自立が、いざというときの孤立を防ぐことにもつながるという大変示唆に富むご提言もいただいておりますので、そういう観点に立った取組、また、この再エネ循環が地域の経済活性化にもつながるという視点からも取り組んでいきたいと思ひますので、また皆さんのお力添えも賜ればと思ひます。

少し長くなりましたが、私からの総括のコメントとさせていただきます。ありがとうございました。

[新川副会長]

ありがとうございました。ご丁寧に、それぞれの委員意見につきまして、コメントをいただきました。

関西広域連合、やらねばならないことは幅広くございますが、ぜひ各委員に

おかれましては、本協議会委員の様々な意見をしっかりと受け止めていただき、今後の展開につなげていただければと思います。よろしくお願いいたしますします。

それでは、予定の時間が参りましたので、意見交換は終了とさせていただきます。協議会委員の皆様方、まだまだご意見がおありかと思ひます。後日でも結構ですので、事務局までご連絡いただければと思ひます。

加えて、もう一つ、協議会委員の皆様方をお願いをしたい点がございます。

広域連合は現在、次年度からの新たな広域連合の計画の策定に、今年度取りかかるという状況に来てございます。この次期計画に向けて、当然、この協議会の皆様方からもいろいろご意見をいただいきたいと思ひております。各委員におかれましては、それぞれお考えのことなどおありかと思ひますので、積極的に、こうした場以外のところでも事務局までご連絡をいただき、ご意見をいただければ、よりよい次期計画の策定に向けて進んでいくことができるのではないかとと思ひております。私がこの計画の委員会に関わっておりますので、あえて、この場で委員の皆様方をお願いをさせていただきます。よろしくお願いいたしますします。

それでは、以上をもちまして、意見交換の場は終わりたいと思ひます。進行を秋山会長にお返しをさせていただきます。

秋山会長、よろしくお願いいたしますします。

[秋山会長]

新川副会長、ありがとうございました。また、各委員の方々からは大変貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

[事務局]

秋山会長、新川副会長、ありがとうございました。また、各委員におかれま

しても、年度初めのお忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第28回関西広域連合協議会、閉会いたします。どうもありがとうございました。

閉会 午後 3時15分